

【目次】

1. アーカイブ No.29

連載「日本労働会館物語」第 26 回

(社会主義研究会その 1—安部磯雄・村井知至が結成へ)

2. 5/07(水)~08(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・さとう労働組合 30 名
3. 5/14(水)~15(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・
2025 年度 組合役員トップセミナー 582 名
4. 5/21(水) 団体見学・UA ゼンセン神奈川県支部・「伝承未来塾」22 名
5. 5/22(木) 団体見学・フード連合・マルハニチロユニオン 7 名
6. 5/30(金) 団体見学・JAM 全矢崎労働組合 17 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.29

連載「日本労働会館物語」第 26 回 2011.04.28 発行の第 30 号に掲載

＜社会主義研究会その 1—安部磯雄・村井知至が結成へ＞

ユニテリアン教会・唯一館(後の日本労働会館、現・友愛会館)が日本社会運動史において特筆されるのは、ここで社会主義研究会(後の社会民主党)が結成され、また友愛会が創立されたことです。社会主義研究会が改組した社会民主党は日本で最初の社会主義政党とされ、友愛会は今日のナショナルセンター連合に繋がる民主的労働運動の源流です。

前回までは社会主義研究会前史として 3 回に亘り安部磯雄、村井知至、岸本能武太(一時期のユニテリアン協会で活躍した同志社グループの三幅対)について紹介してきましたが、今回は明治 31(1898)年 10 月に結成され、後に社会主義協会、社会民主党へと発展した社会主義研究会について記述します。

同会は広辞苑で「1898(明治 31)年創立の日本最初の社会主義研究団体。会長村井知至をはじめ安部磯雄・片山潜・幸徳秋水らが参加。1900 年社会主義協会に改組」と紹介され、デジタル大辞泉では「明治 31 年安部磯雄・片山潜・幸徳秋水らを中心とし、社会主義理論の研究を目的として結成された団体。同 33 年社会主義協会に改組し、同 37 年解散」と解説されています。

その通りでしょうが、安部磯雄や片山潜と並んで幸徳秋水を社会主義研究会の代表的メンバーとして挙げるのは、問題があると思います。それは「ユニテ

リアンの村井知至と安部磯雄が設立を協議し、それに社会問題研究会の会員であった片山潜・幸徳秋水・佐治実然が加わって社会主義研究会が結成された」(『社会主義の誕生—社会民主党 100 年』)のであり、創立時のメンバーは全員がキリスト教徒で、幸徳秋水は加わっていないからです。

ここで社会主義研究会創立者とされるのは、会長の村井知至の外、佐治実然・神田佐一郎・豊崎善之助・岸本能武太・新原俊秀・片山潜・河上清・高木正義の8名で、10月10日頃に惟一館に会合し、社会主義研究会を結成したとされています(前掲書)。

幸徳秋水は今日、高名な社会主義者として知られますが、社会主義研究会の創立メンバーではなく、また非キリスト教徒で後に無政府主義者となる人物。それ故、彼を社会主義研究会の代表的メンバーとして紹介することは、同会の性格やあるべき姿を誤解させることとなります。

なお、安部磯雄は当時、京都の同志社にいたため設立メンバーには入っていませんが、村井知至とともに社会主義研究会を仕掛けた人物であり、中心人物です。安部と村井は同志社時代からの親友であり、「社会主義は基督教の経済的方面であり、基督教は社会主義の倫理的方面であるというキリスト教社会主義思想の持ち主」(前掲書)でした。(文責 間宮悠紀雄)

2. 5/07(水)~08(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・さとう労働組合 30 名

今回は二部構成になっていました。まず第一部は「日本労働運動の 100 年余」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説、それにプラスして「流通労働運動の歴史概観」を受講した。特に大きな争議から学んだ労使関係における団体労働協約の重要性、また同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。加えて流通運動の歴史、流通同盟結成への動きと流通四団体へ分裂の結末。時は立ち 2012 年 11 月流通大同団結として UA ゼンセン結成。

第二部では、「労働組合が政治活動に取り組む理由」を受講。労働組合の目的である生涯にわたった総合的な福祉の実現のための活動、組織内の活動(自主的な福祉活動)、企業内の活動(労使の交渉・協力)、国民的な活動(政策・制度の改善)の具現化のためには政治活動が必須である。「今なぜ国民民主党なのか」歴史から現代につながる考え方、「反自民・非共産」の考え方を説明。未来に向けた産業構造の変化とともに労働組合として成すべきことを講演。選挙には勝。新しい労働運動と不変の労働運動、生産性運動三原則の変遷と今後の展開についてを講演しました。

3. 5/14(水)~15(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・202 年度 組合役員トップセミナー 582 名

労働組合の組織強化を目的に、人材育成の一助として、運動家としての人間性と品格を高め、労働運動の精神を正しく継承、基本的な組織運営と交渉の実務について、歴史を振り返りながら、未来を学ぶ。

第一講義は「労働組合の組織と組合三役の役割」と題し、目的(生涯にわたった総合的な福祉の実現)と役割(交渉)を明確にする。目的の実現のためには、政治活動は必須項目である。また、民主的労働運動の基本を復習する中で、共産主義的労働運動との違いを明確にした。労使対等の原則と労使信頼関係の原則を説き、「健全な摩擦があつてこそ、健全な議論が生じ、健全な労使関係が育つ。」決して、最初から労使協調があるのではない。信頼される労働組合とは、世話役活動が出来ること、職場に労働組合(活動家)が存在することと説いた。

第二講義は、「労使交渉と労働条件向上に向けた実務」と題し、組織的な前提条件として、労働組合が組合員から存在価値が認知されていること。同時に会社からも認知されていることが必要。生産性運動三原則の労使の共有が出来ていることは重要。さらに労働協約の充実、中でも情報の開示をもとに通年交渉と労使会議体の充実が必要と説きました。

翌日は質疑応答で多くの質問や意見が出されました。

4. 5/21(水) 団体見学・UA ゼンセン神奈川県支部・「伝承未来塾」22 名

常設展示「日本労働運動の 100 年余」を講演。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聴きました。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。その後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学した。皆さんとっても熱心に受講し見学をしました。

第二講義は労働組合と政治についてです。政治活動と選挙活動の違いとその必要性、政治が出来なければ労働組合ではないとする。政治の歴史と共に、今なぜ国民民主党なのかを明確にし、選挙を戦い抜くこととなります。

5. 5/22(木) 団体見学・フード連合・マルハニチロユニオン 7 名

フード連合・マルハニチロユニオンの 7 名が、常設展示の講演を受講。その後、展示物を見学をしました。常設展示「日本労働運動の 100 年余」を解説講

演。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を聴く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。皆さんとっても熱心に受講し見学をしました。

6. 5/30(金) 団体見学・JAM 全矢崎労働組合 17名

JAM 全矢崎労働組合 17名が来館。常設展示「日本労働運動の100年余」を見学。安部解説員の言葉に耳を傾け、大変熱心に時間をかけて見学しました。

-----*「人間の尊厳、進歩と発達のために」*-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----*惟一館から130年、友愛会から112年*-----